

基本情報

授業科目名	比較文学比較文化演習II
授業科目名(英語)	Seminar on Comparative Literature and Culture II
時間割コード	31D210-1030S
開講所属	総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化コース博士後期課程
時限	水(Wed)6 [18:10-19:40]
学期	夏学期 (2014/04/01-2014/09/30)
単位数	2.0
対象学年	D1/D2/D3
他学部履修	可
主担当教員	Hermann Gottschewski
備考	
教室	アドミニレーション棟 学際交流ホール
授業使用言語	日本語

担当教員一覧

※並び順

1 番目：主担当教員

2 番目以降：五十音順

教員名	教員所属
ヘルマン ゴチエフスキ (Hermann Gottschewski)	超域文化科学 専攻

詳細情報

講義題目 (Course Title)	詩と音楽
授業の目標・概要 (Course Objectives/Overview)	<p>アウグスティヌスの音楽論 ("De Musica") を読むと音楽のほとんど全ての問題が詩の例で説明されている。それは音楽理論史にもまれな極端な例ではあるが、そこから現在の音楽教育でよく忘れられる根本的なことを学ぶことができる。つまり詩人が詩を作って、作曲家がそれを作曲して「歌曲」（または「アリア」、「合唱曲」、「唱歌」、「賛美歌」、「ソング」など）が創作される場合には、音楽の創作に関わっているのは作曲家だけではない、ということである。詩人も音楽創作の一部を担っている、ということである。詩にはすでにリズム、声の抑揚等があるから、作曲されていない詩の音楽的な分析も可能だ、ということである。</p> <p>この授業では詩に暗示されている音楽と実際に作曲されている音楽の相互関係を考え、それを特にさまざまな言語圏の比較という立場から分析したいと考えている。例えばヨーロッパ諸言語の韻律の特徴とそれぞれの歌曲の伝統と具体的な作品分析、日本語の五七調、七五調、近代詩文などの音楽的な特徴とその伝統的な・近代的な歌い方、そして歌曲を翻訳する場合の諸問題を授業で扱いたいと考えている。</p>
	<p>[日本語用] 詩、音楽、歌曲、韻律、リズム、旋律、アリア、合唱曲、唱歌、賛美歌、ソング、民謡、わらべうた、発音、言語、日本語、ドイツ語、ポーランド語、英語、フラン</p>

授業のキーワード (Keywords)	ス語、ラテン語、ギリシャ語、イタリア語、韓国語、中国語、翻訳 [外国語用]
授業計画 (Schedule)	1 韻律その1 西洋古典語の長短韻律 2 韻律その2 西洋現代語の強弱韻律 3 韻律その3 中国の平仄と漢詩 4 韻律その4 日本語の七五調 5 諸国のわらべうたのリズム 6 賛美歌における韻律とリズムの関係1 ルターの時代 7 賛美歌における韻律とリズムの関係2 17世紀以後のドイツ語・英語の賛美歌 8 日本の賛美歌・唱歌における韻律とリズムの関係 9 ドイツの芸術歌曲における詩と音楽の関係 10 日本の伝統音楽における言葉と旋律の関係 11 日本の近代の歌曲における詩と音楽の関係 12 ポーランド語の韻律よ歌曲 13 強弱韻律の歌曲の日本語訳の諸問題1 韻律問題 14 強弱韻律の歌曲の日本語訳の諸問題2 語彙問題 15 まとめ
授業の方法 (Teaching Methods)	ゼミ形式にする
成績評価方法 (Method of Evaluation)	参加者の積極的な授業参加、口頭発表とレポートに基づいて採点する。
教科書 (Required Textbook)	
参考書 (Reference Books)	
履修上の注意 (Notes on Taking the Course)	音楽を中心とする授業だが、文学出身の学生も歓迎。
関連ホームページ (Course-Related Websites)	http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/~Gottschewski/
その他 (Others)	4月9日は休講にするので、最初の授業は4月16日になります。

[別の条件でシラバスを参照する](#)